

細井平洲と秋山玉山との忘年の交わり

王玉英

景文科技大学应用外语学科

要旨

細井平洲（1728～1801）は江戸時代中期の儒者であり、政事に長じると同時に、詩文にも堪能である。生涯、数多くの詩を制作した。彼の政事指導者や教育家としての活動がよく知られているが、詩人としての活動については、あまり考察が行われていない。平洲の親密な交友の中で、とくに親子ほどに開く年齢差の、二十六歳年上の熊本藩儒秋山玉山（1702～1763）との忘年の交わりを結んだのは、美談として語られている。従来の研究では、平洲の忘年の交わりについて具体的に論じられていない。本稿は、『嚶鳴館詩集』『嚶鳴館遺稿』『玉山先生詩集』『玉山先生遺稿』に収録されている漢詩文をもとに両者の交友の実態を考察しようとするものである。

キーワード：細井平洲、秋山玉山、詩文、忘年の交わり

細井平洲與秋山玉山之忘年交

王玉英

景文科技大學應用外語系

摘要

細井平洲（1728～1801）是日本江戶時代中期的儒者，長於政事，同時也精於詩文，終生所創作的詩文甚多。關於細井平洲的政事指導或教育活動，廣為人知，但是有關於詩文方面，卻少受到探述。平洲的親密至友當中，熊本藩儒秋山玉山（1702～1763）比他年長二十六歲，兩人之間的忘年之交，向來蔚為美談。過往的先行研究對於平洲的往年之交，並沒有具體的論述，本文根據『嚶鳴館詩集』『嚶鳴館遺稿』『玉山先生詩集』『玉山先生遺稿』所收錄的漢詩文資料，考察兩人的具體交遊狀況。

關鍵詞：細井平洲、秋山玉山、詩文、忘年交